

くくや台幼稚園

住宅用の流通製材で大空間をつくる試み、園児に説明できる園舎



■ 建築概要

所在地 茨城県古河市三和

構造・階数 木造平屋建て

事業費 138,715,200円

工期 平成30年10月～平成31年4月

施工者 (株)角幸

施設用途 幼稚園

延床面積 460㎡

木工事費 28,893,392円

設計者 Live Haus 建築設計所・飯田貴之建築設計事務所

木材供給者 (株)皆川製材所 (株)野上製材所

■ 施設の概要・特徴

主要構造部材すべてに県産製材を用い、うち80%を住宅用の流通製材（成240mm、長さ4m以下）で構成した木造園舎で、持ち出し継ぎで梁成と材長を抑える工夫、圧縮斜材とはさみ梁を用いたトラス構成の吟味、継手をずらした重ね梁の活用など、小さな材で（園の活動に必要な）大きな空間をつくることを目指した。園児を上から優しく見守る視点を提供するキャットウォークは、立体的で一体感のある空間をつくると共に、庇を支える構造的な役割も兼ねるなど、園児にも説明できるような、それぞれに意味のあるデザインを心掛けた。

■ 使用した木材や工夫した点

内部の天井材、白で着色した腰壁材、デッキ部分の天井材を同じ形状のスギ板材に統一しそれを使い回すことで無駄を減らした。その、定尺長さ4m材の中で半端となる36cmの部分を利用して、右写真のようにデッキ部分の外壁をうろこ張りにした。何枚おきかに三角が出てくるランダムな部材構成に、スギ材特有の赤と白の自然な色合いのバラツキが相まって、少し手間は掛かってしまったが、やさしい表情の外壁となった。端材でつくったとは思えない、けれど子どもたちには話しやすい有効活用の物語である。建具には合板仕上げの部分もあるが、床材や腰壁、建具の引手の部分など、園児の手足に触れやすい箇所には無垢材を使用し、木の温かみを感じられる建物になることを願って計画した。



樹種	使用量 (うち 県産材)	使用部
スギ	81.45㎡ (80.39㎡)	柱・梁・タルキ・ 間柱等
ヒノキ	7.28㎡ (7.28㎡)	土台・大引
その他	37.77㎡ (0.00㎡)	野縁・合板等
計	126.50㎡ (87.67㎡)	

